

将来の学校づくりに関する地域懇談会
【令和4年11月26日・12月4日】
実施概要

1 趣旨

学校適正化等検討を行う一環として、地域住民との情報共有や意見交換を行い、(仮称)寒川町立小・中学校適正化等基本計画をより実行性のある計画とするため。

2 主催

寒川町教育委員会 教育政策課

3 日時

(1) 令和4年11月26日(土)

① 9:30~11:43 ② 14:00~16:02

(2) 令和4年12月4日(日)

① 10:00~12:15 ② 14:30~16:40

4 場所

(1) 寒川町役場 東分庁舎 2階会議室及びオンライン(ZOOM)

(2) シンコースポーツ寒川アリーナ(寒川総合体育館) 1階 多目的室
及びオンライン(ZOOM)

5 参加者: 24名(オンライン参加者含む)

6 概要

事務局から寒川町立小・中学校適正化等基本方針及び現在の検討状況について説明し、参加者と意見交換を行った。

(1) 意見交換概要

参加者からの主なご意見は別紙のとおり。(要約)

※いただいたご意見につきましては、今後の検討委員会等においてご紹介するなど、ご意見を参考にしながら検討を進めていくこととする。

地域懇談会における意見交換概要

懇談会でいただいたご意見（要約）を大枠の主旨で分類しています。
他の項目と重複する内容についてもありますのでご承知おきください。

意見概要項目

- ◆めざす教育について
- ◆本検討の位置づけについて
- ◆スケジュールについて
- ◆学校の配置について
- ◆学区について
- ◆通学について
- ◆学校施設について
- ◆小中一貫教育について
- ◆コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について
- ◆少人数教育について
- ◆人口推計について
- ◆財源・費用について
- ◆その他

◆めざす教育について

○めざす子ども像がすごく消極的なイメージがします。

変化に耐えるのではなく、変化を起こす側になってもらいたいと思っています。そのような子どもになってもらう教育であってほしいと思います。

そのためには積極的に自分の考えを自分の判断で言えるような、英語でもフランス語でも言えるような子に成長してもらえたらいいと思います。

みんな一緒ではなく、個性を大事にした教育をしてほしいなと思います。それが教育の理念であってほしい。

※（事務局回答）教育大綱や教育振興基本計画を定め、教育に関する基本理念やめざす子ども像を示しています。また、2040年に向けた町総合計画において、教育委員会の目玉としてグローバル教育推進事業を

掲げ、その中で大きな2つの柱として情報教育と外国語教育をあげています。

情報教育については、1人1台タブレットが導入され全国と比較しても町は利用率が高くなっています。外国語教育においても県内で初めて外国人指導者を各学校に1人ずつ配置し日頃から生きた外国語に触れられる機会を設けています。

学校教育なので、全ての子どもを取りこぼさないようにということはあるが、しっかりと基礎力をつけて、子ども達の未来が開けるようにしていきたい。

○この再編を検討する上で、教育という観点がほとんどないように感じる。これをやったら学力が上がるのか、不登校が減るのかなど教育成果のために再編をやるのがほとんど出てこない。

○町の教育目標の達成のための再編になっていないように思う。

※（事務局回答）人口減児童生徒数の減少により町のめざす教育の達成が難しくなることから、学校再編が必要となってきます。具体的な手法に加えて、前提となっている寒川町がめざす教育など教育目的を明確にし、みなさまと共有し検討を進めていきたいと考えている。

○将来に向けた方向性を行政の固い言葉ではなくて、わかりやすいように示していく必要がある。学校の再編計画はソフト面の具現化のためであることを示さないといけない。

○教育委員の意見もしっかりと聞いて取り組んでもらいたい。

※（事務局回答）現在は検討委員会で検討をしている段階ですが、検討状況については定期的に教育委員会定例会やその他の場面において、教育委員に報告等を行っております。

◆本検討の目的や位置付けについて

○学校の統廃合する目的というか、何を解決するためにやるのか教えていただきたい。

※（事務局回答）人口減少・少子化の進行による将来的な児童生徒や学級数が減少する学校の小規模化に対応し、また学校施設の老朽化対策を行い、将来の充実した教育環境を確保するため検討を進めているところです。

○公共施設再編計画に縛られ過ぎているように感じる。

※（事務局回答）前段で策定された公共施設再編計画においても、懇談会や説明会、パブリックコメント、更に町議会など、民主的な手続きを経て決定されたものであることから、本検討においても尊重することとしています。

○将来的には南小学区の地域と旭小学区の地域の人口が増えていくと思われます。まちづくりと教育をどう考えていくのかが気になります。南小の南側、旭小の北側に教育コミュニティとなる施設があってもいいと思います。

※（事務局回答）現在は学校について検討を進めているが、今後、町全体の公共施設の最適配置について議論を進めていくこととなります。関連部署とも連携して進めていきます。

◆スケジュールについて

○再編は10年後くらいを予定しているのか。スケジュール感はどうか。

※（事務局回答）参考資料のNO.13～15 関連において、施設更新の想定スケジュールを示しており、長寿命化の実施有無によりスケジュールも差が出ています。

○今後のタイムスケジュールとしては、どのような予定か。

※（事務局回答）令和5年6月末までに教育委員会としての考えを基本計画として示したいと考えています。また、それ以前にパブリックコメントや地域懇談会等を開催しご意見を踏まえた上で、教育委員会の考えとして示す予定です。

その後、公共施設全体の中で更に他の施設と併せて検討していくこととなります。町の公共施設再編計画については、2024年度に見直しをすることとなっていますので、教育委員会としての学校の適正配置の考えを反映させて改定することとなります。なお、財源についてもその中で決まっていくこととなります。

◆学校の配置について

○各学校が防災拠点いになっている。水害の時には川のそばの学校は危ないんじゃないかという人もいる。学校が減ると防災拠点も検討しないといけない。

※（事務局回答）学校の再配置状況によっては、別途地域防災力を確保するための対応が必要となると考えています。

○教育を充実させるためにお金の面も重要であることは理解するが、一之宮在住の者からすると、寒中、一少がなくなることは受け入れがたい。

通学で子どもの姿を見るのは地域に活気が出る。地域に学校があることは重要である。

○学校が広域避難所となっているので、各学校の敷地が地震や水害に強い、弱いというか優劣はあるのか。

※（事務局回答）ハザードマップや河川との位置関係、過去の災害状況も各校異なるため、再配置候補の学校の中では一概に立地ので優劣はつけられない状況です。

学校が未配置となる地域では防災拠点について、防災所管と検討していくこととなります。

◆学区について

○各学校の児童生徒数も学区割次第ではないか。学区を撤廃し選択制にして通いやすい学校や行きたい学校を選んでもらうこともよいのではないか。

※（事務局回答）学区を撤廃することで遠方になる地域の子どもの負担が大きくなるため、ある程度の距離設定が必要と考えています。地域にお住いの方に対しても学区という認識はあり、過去にも学区の変更時には地元地域では抵抗感があった。そのため、できる限り学区は変更しないようにと考えています。

○ある程度の距離（小学校2km、中学校3km）の範囲で柔軟に対応する方法もあると思います。

◆通学について

○統廃合すると当然通学距離が長くなる地域が出てくる。子ども達の足で片道2kmや3kmを歩かせるのは生産的ではないため工夫が必要。

○通学距離が長くなると、交通事故の可能性も増えるため配慮が必要。

○通学距離については小学1年生の2kmと高学年の2kmは大分違う。

○小学1年生と6年生で体格も判断力も違うので対策が必要と考えます。

○小学1年生が40分45分歩いて通学することは、本当にやさしい教育の在り方なのか疑問に思う。学区の見直しをすれば距離が緩和する地域もある

○小学1年生に2kmを歩かせるのは賛成できない。

○寒川は道が狭くて、子どもと車の距離が近い。雨の日は特に危ないと感じている。登校時は校外委員の方が旗振りなどをしてくれていて、多少は安全かと思うが、帰りは危ないと感じている。帰りは親が迎えに来ている子どももいる。

○町内は道が狭く危険な場所も多い、歩道がないところもある。昔に比べて車の通行量も増えているので、距離の問題もあるが安全確保が重要である。

※（事務局回答）現時点で示している距離は許容範囲と考えています。安全対策等については、毎年「寒川町通学路交通安全プログラム」により、PTAの方や警察、役場職員等関係者で通学路の合同点検を行い検討・対策を行っています。通学時の安全確保については、引き続き対応してまいります。

<p>○学校に持っていく荷物が多く、重い荷物を持って30分以上歩くのは厳しいと思う。</p> <p>※（事務局回答）教科書等については、「置き勉」ではないが、学校に置いて帰ってもよいものを決めていることもある。また、今後の電子化等の状況により状況が変わってくるものと認識しています。</p>
<p>○学校や先生によって対応がまちまちとなることがあるので、町全体として方針を決める必要があると考えている。</p>
<p>○スクールバスの運用について検討してみてもいいでしょうか。</p> <p>※（事務局回答）スクールバスの運用については運航時の時間的制約や子どもの体力低下、費用面等の課題があり現時点では徒歩での通学を原則としているところです。</p> <p>しかしながら、他の機会でも寄せられている意見であることから、スクールバスに限らず様々な手法を考えていきたい。</p>
<p>○スクールバス導入により運動不足になるなどの課題があるが、学校から近い家庭もあるので、体力面については「体育」の時間があるのでそこで対応していけばよいと思う。</p>
<p>○不登校の問題もある。遠くなることで通わなくなる子が増える可能性がある。</p>
<p>○対応案として、各家庭の判断で自転車通学を認めたり、学校側で荷物の制限を決めるなど具体的な提案があった方がいいと思う。</p>
<p>○隣の自治体では自転車通学が認められているのに、寒川ではダメとなっているので不思議に思う。</p>
<p>○通学方法について各家庭の裁量を認めていく必要があると考えます。</p>
<p>○ICTの進展により、現在既に子ども一人一台のタブレットが配付されていることから、必ずしも学校に行かなくても学びが成立する場面がある。</p>
<p>○国等の基準があると思うが、学校規模を確保するために、子どもや各家庭の状況に併せて、気持ちよく通える環境を整えていくことを明確にして議論してもらいたい。</p>
<p>○通学が長距離となる地域の子どもは通わなくなる可能性がある。みんなで集まる良さを残していく以上は、学校へアクセスしやすくする条件を整えていく必要がある。</p>

◆学校施設について

○かなり古い建物もあると聞いているので、現状の校舎の建替え計画はあるのか。

○全て建替えとなるのか。

※（事務局回答）参考資料NO13～15関連の中で、建て替えの時期や費用のシミュレーションを行っているが、どの学校も老朽化が進んでいるため、この再編を機に再配置後の全校について、新たな学びの環境を整えるべく早期に建て替えをしていきたいと考えている。

○学校施設への対応予算は確保しているのか

※（事務局回答）今後配置パターンを精査しつつ、財源の確保の調整も行っていくこととなります。

○建物の長寿命化をした場合、国が示すような新しい学びの場を実現可能と考えているのか。

※（事務局回答）現在は学校の再配置場所である大枠を決める段階であり、今後中身の具体的な議論をしていくこととなります。

町で目指している教育を行うために必要な施設としては国の示す方向と同様との認識であるため実現をめざしていきたい。

○建替える学校のデザイン等は決まっているのか。

※（事務局回答）外観イメージはまだないが、国の示しているイメージを参考に、寒川町が目指す教育を達成するために必要な施設をつくっていきたい。

○昭和のイメージままでないようで安心しました。

○どんな教育していくのかなど、ソフト面を考えてハード面を作っていくのが大事だと思う。また、コミュニティ・スクールなども踏まえた校舎づくりをしていてもらいたいです。

○新しい時代の学校のイメージは良いと思う。こういう形を提案したいと思っていた。事前に住宅展示場のように体験できるとよいと思う。

※（事務局回答）学校の配置が決まったあとに、具体の学校づくりについて検討していくこととなります。実際に展示場の様なことは難しいかもしれないが、先進事例を紹介することはできると思うので、具体的にイメージしてもらえようように対応していきたい。

◆小中一貫教育について

○いきなり8から6にするのではなくて、一小、寒中を一貫校にするなどを考えてもいいと思う。

○小中一貫教育については重要になってくると思う。どのように考えているのか。

※（事務局回答）義務教育9年間を一貫した教育としてとらえることは大切であり、今後、小学校と中学校の円滑な接続はさらに重要になってくると考えています。

寒川中学校、一之宮小学校の小中一貫校については、施設一体型を想定されていると思われますが、施設一体校のメリットはありますが、課題として敷地や教職員の確保が難しい面があり、また、児童・生徒数が減少している地域であることから、学校運営に課題が残ることになります。

このような状況を勘案して、町では小中一貫教育を進める上で、施設分離型が妥当と考えています。

◆コミュニティ・スクール（学校運営協議会）（以下：「CS」）について

○現在あまり進んでいないように感じている。

○教員の多忙化が言われている状況で、CSの運営を学校に任せるのは大変かなと思う。地域だけでも大変だと思うので、特化した運営体制・施設があるといいと考えます。そのために財源を投入して新しい人材がいれば活性化するのはのではないかと思います。

※（事務局回答）令和元年に寒川小学校に導入をしたことを始め、令和3年度に小谷小学校、東中学校、令和4年度に旭小学校、南小学校、寒川中学校に設置し、令和5年度に一之宮小学校、旭が丘中学校に設置予定です。（令和2年度はコロナ禍のため新たな導入を見送った。）

コロナ禍で活動が難しい面があったが、寒川小学校での好事例はあるので、運営体制についても課題を洗い出し、今後活かしていきたいと考えます。

○学校再編ではCSが重要になっていく。地域あつての学校であるから、「みんなの学校」という意識を持った中で再編をやっていかないと、評価が得られないと思う。

○住民の意識を変えていくためにも、CSの取組みが重要となってくると思う。学校づくりも一緒にやっていきましょうという雰囲気を進めていけたらいいと思う。

◆少人数教育について

○少人数学級を国や県に先行して対応してもいいと思う。アンケート結果を踏まえて更なる少人数学級をめざしてもらいたい。そうすればクラス数も確保できると考える。

※(事務局回答)少人数学級については今後さらに進む可能性があるので、柔軟に対応できるような施設にすることが必要との認識です。

またクラス数の増加はそれだけ教員数が必要となります。現在、国の基準は小学校35人、中学校40人となっていますが、町独自に30人や35人としていくとなると、独自の予算で対応していくことになります。費用が増加することもあります。その前に教員の成り手不足の問題がありますので課題大きい部分です。

○クラス規模は各学年3学級くらいが良いと考える。小学校を2学級以上とした理由はなにか。

※(事務局回答)アンケート結果では3学級とする回答が多かったのは事実ですが、国の基準では12学級以上、18学級以下というものがあり、小学校に当てはめると2学級から3学級となります。

児童数が減少する中でまずは最低基準を確保すること、また3学級以上に最低基準を引き上げると、適合する学校が少なくなり更に学校数を減らす必要が出てくることとなるため、最低基準として「2学級以上」としました。

◆人口推計について

○町内で分譲等が増加していて、若い世代が増えているような気がしますが、実際は子ども達の数減っているということでしょうか。

※（事務局回答）町内でも宅地分譲が進んでいる地域はあります。人口推計と現状を比較すると減少となる時期が後ろ倒しになっていますが、傾向としては減少となる見込みとなっています。

ただし、今後推計を定期的に見直し、修正すべき点は修正していく必要があると認識しています。

○人口減少が確実になる。これは何年の検討をしているのか。

※（事務局回答）40年後を想定している。町の総合戦略の中で人口ビジョンによる将来推計をに基づき児童生徒数のシミュレーションをしています。

◆財源・費用について

○説明の中で、お金がないという理由もあり、資料の中でここなら売れる、ここなら売れないということを強調されているようにしか思えない。

子ども達と地域に住む人の平等な配置を第1に考えて決めていただきたい。

○寒中と一少がなくなった場合、その地域には集会所もないので跡地に防災拠点の機能等の考えはあるようですが、「学校もない、集会所もない」という印象になってしまう。お金のことではなく、町民が納得する形になるといいと思います。

※（事務局回答）現在の検討は、町の公共施設全体の検討の中で行われていることですが、財政面のみで学校の再配置を議論することは良くないと考えています。

お金のことだけ考えるのではなく、教育の在り方やめざす子ども像などをいかに達成していくかなどを重視し、老朽化している校舎の安全性なども考慮し検討していきます。

しかしながら、校舎等の建て替えには当然費用が掛かりますので、将来の子ども達や世代に過度な負担を残さないためにも、費用をいかに確保していくかという視点も大事になってきます。

◆その他

○税金を納める世帯を増加させるために町も検討していると思うが、どのような形で進めているのでしょうか。

※（事務局回答）町では地方創生ということで、仕事の創出、子育て支援などを進め若い世代、子育て世代に移住定住を促していこうと取り組んでいます。

○教室、図書館、自宅や公民館などからでも授業に参加できるようにするなど、ITを使えば色々なことができると思う。子ども達が社会に出たときに、オフィスと学校のギャップがないようにしていけばいいかと思います。

※（事務局回答）GIGA スクールが2年目となり、徐々にICTの活用が広まってきており今後更に広がっていくと考えています。

「学び」には個々に応じた個別最適な学びと、集団の中で学ぶ協働的な学びの両面があるため、それぞれに適した形がとれるようにしていく必要があると考えています。

○公共的な学び、家庭的な学び、地域的な学びの色分けができるとういと思います。学校で統一的にするのではなくて、リスクを承知した上で権限を分けていき、地域、家庭に判断を委ねていく方向性がいいと考えています。

○人間性の向上の為に、さまざまな学び方ができれば素晴らしいと思います。沢山の成功例を調査し取り入れられたらいいと思います。

○大阪の寝屋川市が選択登校制や授業のLIVE配信なども先進的にやっているのので、寒川町でもやっていけたらいいなと思います提案させていただきます。

○先生も人間ですから、様々な学び方が増える中で、先生へのびやかさやおおらかさ、人間らしさも確保されたら良いと思います。先生方の負担も考慮すべき点だと思います。

※（事務局回答）多様な学びは今後進んでいくと思われます。時代の変化に合わせて教員研修も行い、ICT支援員などを配置し対応しているところですが、多様な学びに全て対応していくことは教員の多忙化につながり、体制が整わないためバランスが大事になってきます。国や県の権限において対応する部分については要望していきます。

○教員の多忙化についてあまり触れていない、施設管理は指定管理に、スポーツは地域に移すことも必要だと思う。

○オンラインであれば不登校の子どもも授業を選べると思います。

○子どもや孫にお金を流す人は少ないです。教育にお金をかけられないとなれば未来はないと思います。財源確保の為にもっと寒川の子育てのしやすさな

どをアピールしたらいいと思います。

子どもの給食にオーガニック野菜が使われていてびっくりしました。友人に話したら寒川への引っ越しを検討している人もいます。

○南小学校設立の時に、将来児童数が減ったときに他の施設に作り替えられるような形でつくったという記憶があるが、もしそうであれば今回の話とどう関係してくるのか。

※（事務局回答）当時そのような考えがあったことは承知しています。過去の状況、またその後の人口減少等の状況を踏まえて検討を進め、現在提示している案になっています。

○一之宮地区のPTA、子ども、自治会の意見をどの様に把握されてきたのか。

※（事務局回答）町全体に関わるため、一之宮地区に限らず町内に通う児童生徒の家庭や教職員及び地域の方に対しアンケートを実施しています。また、地域懇談会についても同様に周知を図りご意見を伺っているところです。

なお、検討委員会の委員に自治会やPTAからそれぞれ3名ずつ参加していたき検討しているところです。

○人口が減っている地域にマンション等を誘致すれば、児童生徒数が確保できるのではないかと考えられる。

○ICT教育を進め、またICT環境を充実させることで、その先の就労にもつながると考える。

○市街化調整区域の問題も簡単ではないが、変更できるのではないかと思う。農地が駐車場などにはなっているところも見られる。調整区域も市街化にして売却も可能ではないかとも思う。発想転換ができればといい。

※（事務局回答）市街化調整区域を市街化に変更するのは、非常にハードルが高い。該当校は寒川東中学校と南小学校だが、学校を設置することで調整区域でも建設が可能となっているため、一般住宅等への利用は難しいと考えている。

○あくまでも人口に着目した検討ということと思いますが、産業構造の変化など総合的に考えるのは難しいかもしれませんが、人口以外の要素も踏まえて検討すべきだと思います。

※（事務局回答）人口推計段階において、開発や転入出の状況などを加味して推計しています。

町全体の公共施設再編計画についても、定期的に人口推計や財政の見込み等を確認しながら、進めていくこととしています。

また、子ども達が身につける能力、資質は時代と共に変わってきます。人口だけでなく、その他の状況も加味して、どういう風に子ども達を育てていくべきか、そのためにはどのような環境を整えていくべきか検討していきます。

○どの案も決め手に欠ける。各質問にしっかり答えられる案としていく必要がある。地域を無視してはできない。住民感情がある。そのためにはしっかりと説明を尽くしていく必要がある。

○再編を機に、寒川の教育の魅力を1つでも2つでも示せたらいいと思う。